

第10回 奈良まほろばソムリエ検定試験

問題用紙

奈良まほろばソムリエ

(午後2時開始 制限時間90分)

注意事項

1. マークシートへの記入にあたっては、硬度 HB または、B の黒鉛筆を使用してください。(ボールペンは使用不可)
2. 誤ってマークしたときは、跡の残らないようにプラスチック消しゴムで消してください。
3. マークシートの解答欄は、各問題につき1つのみ解答してください。
4. マークシートは直接コンピュータで読み取りますので、絶対に折り曲げたり汚したりしないでください。
5. 記述式問題の解答用紙への記入にあたっては、解答用紙の表面に記載されている注意事項をよく読んでください。
6. 記述式問題の解答用紙にも受験番号・氏名の記入欄がありますので必ず記入してください。
7. 点数は100点をもって満点とし、問Ⅰが50点(25問で各2点)、問Ⅱが30点(2問で各15点)、問Ⅲが20点(1問で20点)の配点となります。

(平成28年1月10日)

奈良商工会議所

I. 次の問題について、最も適当なものを選びなさい。

- (1) 山上ヶ岳が今なお女人禁制を守るのに対し、いち早く女性に解放され、「女人山上」や「女人大峯」と呼ばれている隣接する山はどれか。
ア. 行者還岳 イ. 弥山 ウ. 稲村ヶ岳 エ. 大普賢岳
- (2) 奈良公園に咲くアセビについての記述のうち、誤りはどれか。
ア. 常緑の低木である。 イ. 有害なのでシカは食べない。
ウ. 花の見頃は初夏である。 エ. 下向きに花が咲く。
- (3) 斉明天皇がいわゆる「狂心の渠」を通して飛鳥に運ばせた石はどここの山で産したものか。
ア. 石上山 イ. 鳥見山 ウ. 二上山 エ. 貝吹山
- (4) 松永久秀と筒井順慶の軍勢が東大寺の戦いとほぼ同時に行った戦いはどれか。
ア. 龍王山城の戦い イ. 高取城の戦い ウ. 筒井城の戦い エ. 鬼園山城の戦い
- (5) 文久3年(1863)に朝命を受けて、天誅組から十津川郷士を離反させたのは誰か。
ア. 藤本鉄石 イ. 上平主税 ウ. 松本奎堂 エ. 吉村寅太郎
- (6) 清寧天皇のあとを継いで即位したと言われる飯豊皇女の陵に治定された古墳はどこにあるか。
ア. 香芝市 イ. 広陵町 ウ. 葛城市 エ. 大和高田市
- (7) 御所市の丘陵地に点在する古墳のうち、水鳥形埴輪が出土した全長約150mの前方後円墳はどれか。
ア. 新宮山古墳 イ. 水南古墳 ウ. 権現堂古墳 エ. 掖上罐子塚古墳
- (8) 纏向遺跡の溝から検出され、平成27年(2015)に分析結果が発表された花粉はどのハーブか。
ア. ラベンダー イ. バジル ウ. サフラン エ. ミント
- (9) 猿楽結崎座(観世座)の本拠地に観阿弥清次の伝説を記念して建てられた面塚はどの川の堤にあるか。
ア. 寺川 イ. 飛鳥川 ウ. 曾我川 エ. 葛城川
- (10) 「穴(阿那)地蔵」と呼ばれる、60年に1度開帳の秘仏を本尊とする寺院はどれか。
ア. 空海寺 イ. 五劫院 ウ. 地藏院 エ. 西福寺
- (11) 会津八一の「びるばくしゃ まゆねよせたる まなごしを まなこにみつ つあきののをゆく」は、どここの四天王像を詠んだものか。
ア. 興福寺東金堂 イ. 東大寺法華堂 ウ. 法隆寺金堂 エ. 東大寺戒壇院
- (12) 社殿の裏山に通称「ごしゃお」(御社尾)という巨大な岩があり、小山戸明神とも言われる神社はどれか。
ア. 天神社 イ. 雄神社 ウ. 都祁水分神社 エ. 都祁山口神社

Ⅱ. 次の中からテーマを2つ選び、それぞれについての解説文を別紙の解答欄に200字以内で書きなさい。尚、選択したテーマの番号を解答欄左上の所定欄に記入すること。

(各15点)

- (1) 竹内街道について
- (2) 奈良奉行について
- (3) 高取城について
- (4) 奈良県内の運慶仏について
- (5) 額田王の万葉歌について

Ⅲ. 次の中から1つ選び、その場所を含む1日の見学コースを想定したのち、同伴者を楽しませ、奈良の文化遺産や自然遺産に興味をもたせるには、どのように案内すればよいかを考え、自分なりの見学計画を400字以内で書きなさい。

尚、選択した番号を解答欄左上の所定欄に記入すること。また、行程ならびに本文の記述にあたっては、下記の条件を参照すること。

(20点)

- (1) 二上山 (葛城市)
- (2) 秋篠寺 (奈良市)
- (3) 宇太水分神社 (宇陀市)
- (4) 役行者ゆかりの地をめぐる (奈良県内)
- (5) 信貴山 (生駒郡)

【記述の条件】

- ・ 主な見学地を訪れる順番にそって行程を設定し、枠内に記入しなさい。
なお、行程は〔○○○～○○○～○○○…〕という書き方で列記すること。
- ・ 見学地の数は自由とします。
- ・ 見学の集合・解散場所(鉄道の駅や路線バス乗り場など)を想定する必要はありますが、行程の欄や本文の中にあえて入れる必要はありません。
- ・ 見学地間の移動手段は徒歩を基本としますが、路線バス・鉄道・自動車などを利用しても構いません。

